



クローズアップ
CLOSE UP

氷点下の自然を感じて

赤城山でAKAGI WHITE WEEK 2023を1月28日から2月5日まで開催しました。期間中は氷上ワカサギ釣り体験やジュニアスキー教室、雪中キャンプ体験、スノーシューツアーなどを実施。訪れた人は冬の赤城山ならではのアクティビティを満喫しました。



スローシティを全国へ

2月15日、スローシティウェビナーを宮城県気仙沼市と共催しました。作家の島村菜津さんによる基調講演やパネルディスカッション、各市で活動する人や団体の取り組み報告を実施し、スローシティへの仲間入りを全国へ呼び掛けました。



本市公式
YouTube



五輪選手が特別に指導

1月28日、ヤマト市民体育館前橋で東京2020オリンピックトランポリン代表の堺亮介さんと宇山芽紅さんによる、スキルアップ講習会を開催。これは同大会のレガシー事業として開催したもので、小中学生9人が基本のジャンプから各自の課題点まで、直接指導を受けました。



箱根駅伝に
関東学生連合で出場
新田 颯さん・22歳
大利根町

継続と分析の反復が花開く



第99回箱根駅伝に関東学生連合の主将として出場した育英大4年の新田さんは、1区で区間3位相当の参考記録で好走を見せた。

「ゴール後もクールダウンで走っている時に声をかけてもらい、箱根駅伝を走った実感が湧きました」

好走の要因は、練習の継続と物事を分析した結果だという。「継続の重要性は、関東学生連合として出場経験のある先輩と同年選手の練習に取り組み姿勢から学びました。また、マネージャーにランニングの様子を撮影してもらい、フォームの研究もしました」

本来であれば、2年時に関東学生連合として出場が決まっ

いたが、膝のけがにより、出場を断念した。

「最終学年で駅伝部主将となり、自分が結果を出さないといけないというプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、箱根駅伝に出場するという共通の高い志を持ったチームメイトが支えてくれました」

育英大で出場する夢は叶わなかったが、個人では2年ぶりの出場権を獲得。

「今後は陸上人生で培ってきた知識を還元し、多くのランナーが自己記録を更新できるように後押しをしたい」と語る新田さん。

実業団ではなく一般企業への就職を決めて、次の目標に向かって走り始めている。

認知症は誰もがなり得る病気。安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、自分ごととして考えることが大切です。今回はオレンジパートナーまえばしの活動を紹介します。

「認知症になったら今の趣味を続けられるか」「家族と一緒に生活していけるか」認知症は、このような不安があるもの。しかし、認知症でも自分らしく暮らし続けられる社会になれば、不安は軽減されます。そのためには、認知症への社会の理解を深め、広めることが必要不可欠です。

その一つとしてオレンジパートナーの活動があります。認知症サポーター（認知症のことを正しく理解し、認知症やその家族を温かく見守り支援する応援者）で、認知症支援を実践するための「ステ

認知症 支え合うまえばし

Vol.6
オレンジパートナー
まえばし

認知症ケアパス
認知症に関する情報を掲載しています

長寿包括ケア課
027-898-6133



竹之内会長（右）と認知症についての学習会をする古市町天道長寿会の会員の皆さん（左）

「認知症になったら今の趣味を続けられるか」「家族と一緒に生活していけるか」認知症は、このような不安があるもの。しかし、認知症でも自分らしく暮らし続けられる社会になれば、不安は軽減されます。そのためには、認知症への社会の理解を深め、広めることが必要不可欠です。

その一つとしてオレンジパートナーの活動があります。認知症サポーター（認知症のことを正しく理解し、認知症やその家族を温かく見守り支援する応援者）で、認知症支援を実践するための「ステ

「認知症になったら今の趣味を続けられるか」「家族と一緒に生活していけるか」認知症は、このような不安があるもの。しかし、認知症でも自分らしく暮らし続けられる社会になれば、不安は軽減されます。そのためには、認知症への社会の理解を深め、広めることが必要不可欠です。

その一つとしてオレンジパートナーの活動があります。認知症サポーター（認知症のことを正しく理解し、認知症やその家族を温かく見守り支援する応援者）で、認知症支援を実践するための「ステ